

## ペルー 次期のブルーベリー輸出は20%の成長を予測

[FreshPlaza 2025年5月28日](#)

2024/25年度のペルーのブルーベリーシーズンは4月に終了し、31万8千トン以上が輸出された。これは、悪天候の影響を受けた前回の出荷シーズンからの回復を示している。結果は良好であったが、このセクターは構造調整を行うための商業上及び物流上の戦略が求められる新たな課題に直面している。

このセクターの主要な生産者と輸出業者を代表するブルーベリー協会 (ProArándanos) のゼネラルマネージャーであるルイス・ミゲル・ベガス氏は、「今年のおよそ半分の期間、数量も価格も良好で良いシーズンであった。しかし、物流面で大きなストレスがあった」と述べた。同氏は、果実の60%以上が年度の最終四半期に輸出され、価格、物流、保管施設を圧迫したと説明し、「このような供給の集中は、商業的な観点からも物流的な観点からも、大きな課題である」と語った。

ベガス氏はまた、この期間中、カヤオ港、フィラデルフィア港等の港湾が深刻な混雑に見舞われ、パナマ運河でも遅延が発生し、それらはブドウ等他の品目の輸出シーズンとの重複によって悪化したと述べた。このような中、同協会は次のシーズンで20%の成長を予測していることから、事前に対策を講じる必要がある。

こうした背景から、ペルー輸出観光促進委員会 (PromPerú) は、ペルー産ブルーベリーの国際流通を促進するための積極的な戦略を打ち出した。同委員会は、業界団体やこの分野の企業と緊密に協力してこれを実施している。この取組みは、市場の多様化、特定の期間の物流の混雑解消、及び成長の可能性の高い輸出先での製品の存在感の強化を目的としている。

取組みのリストには、新規市場の開放を促進し、供給を拡大するための貿易使節団の編成と主要な見本市への参加が含まれる。この一環として、ペルーは最近、4月8日から11日までモンリオールで開催されたカナダ農産物マーケティング協会主催の見本市であるCPMA2025に参加した。

同委員会が主導し、トロント駐在のペルー商務事務所の支援を受けたこの貿易使節団には、主要なブルーベリー生産者を含む11の青果物輸出業者が参加した。日程は、カナダの輸入業者とのビジネスミーティング、小売バイヤーとの交流セッション、棚に並ぶペルー産品の販売状況を確認するためのスーパーマーケットへの訪問等であった。

同委員会は、「主催者や参加企業からは、大変満足のいくものだ」と評価された。1,290万ドル以上の売上が確保され、1,180万ドル相当の商談の見通しが創出された。これらの数字は我が国の産品に対するカナダ市場の関心の高まりを反映したものだ」としている。

米国は現在、ペルーのブルーベリー輸出の55%を占めている。これに次いで主要な輸出先としてランクされるのは、オランダ、香港、英国、中国である。この文脈でベガス氏は、「輸出先、物流、出荷期間を多様化することが重要である。カヤオ港や、米国等の単一の市場に過度に依存すべきではない」と強調した。

同委員会は、カナダに加えて、香港のアジアフルーツロジスティカやスペインのフルーツアトラクションへの出展、さらに日本、ベルギー、ポーランド等の戦略的市場への貿易使節団の派遣によってペルーのプレゼンスを強化しようとしている。収穫後の貯蔵寿命で中国で高く評価されているセコイアブランドの品種は、従来品種のベンチュラやピロクシとともに、これらの輸出先で積極的に宣伝されている。有機ブルーベリーは、今シーズンの輸出量の10%を占め、これはペルーの持続可能な農法への取組みを浮き彫りにしている。

ベガス氏は「米国の関税問題は、主要な課題から我々の気をそらした。我々は消費の増加と物流問題の回避に関心を持つべきである。関税を課しても、消費を奨励する助けにはならない」と述べている。このことから、官民両セクターが国際的なプロモーション、品種の開発及び業務実施効率の向上に取り組んでいる。

同委員会が推進する販売促進キャンペーンは、この共通のビジョンに沿ったものである。ベガス氏は「未来は我々の手の中にある」と締めくくった。

執筆者: ダイアナ・サジャミ